

リケンテクノス株式会社

2021年3月期

決算説明会

2021年5月17日

目次

- 決算概要
- セグメント別概況
- 3カ年中長期経営計画進捗

2021年3月期決算概要



2021年3月期 連結業績サマリー

単位：百万円、円

科 目	2021年 3月期	2020年 3月期	前 期 比	増 減 率	2021年 3月期 業績予想(※)
売 上 高	88,224	98,808	▲10,584	▲10.7%	87,000
売上総利益	16,814	17,975	▲1,161	▲6.5%	-
営業利益	5,313	5,581	▲268	▲4.8%	4,800
経常利益	5,652	5,670	▲18	▲0.3%	4,900
親会社株主に帰属する 当期純利益	3,234	3,064	+170	+5.5%	2,500
1株当り利益	51.22	48.11	+3.11	+6.5%	39.54
R O S	6.0%	5.6%	+0.4%	-	5.5%

※ 過去最高

※ 2021年1月29日修正後

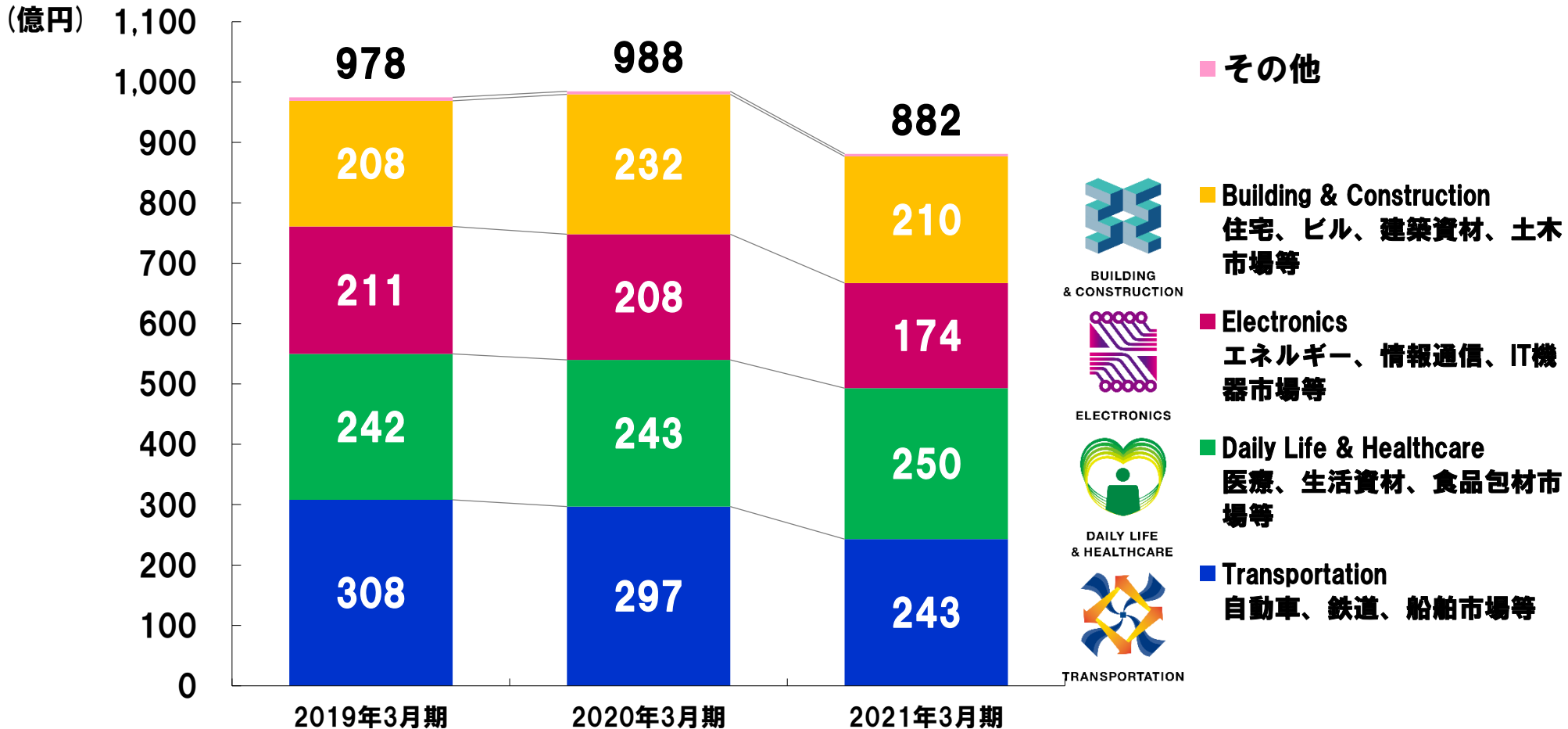


セグメント別売上高推移

2021年3月期 売上高

882億円

前期比105億円減(10.7%減)

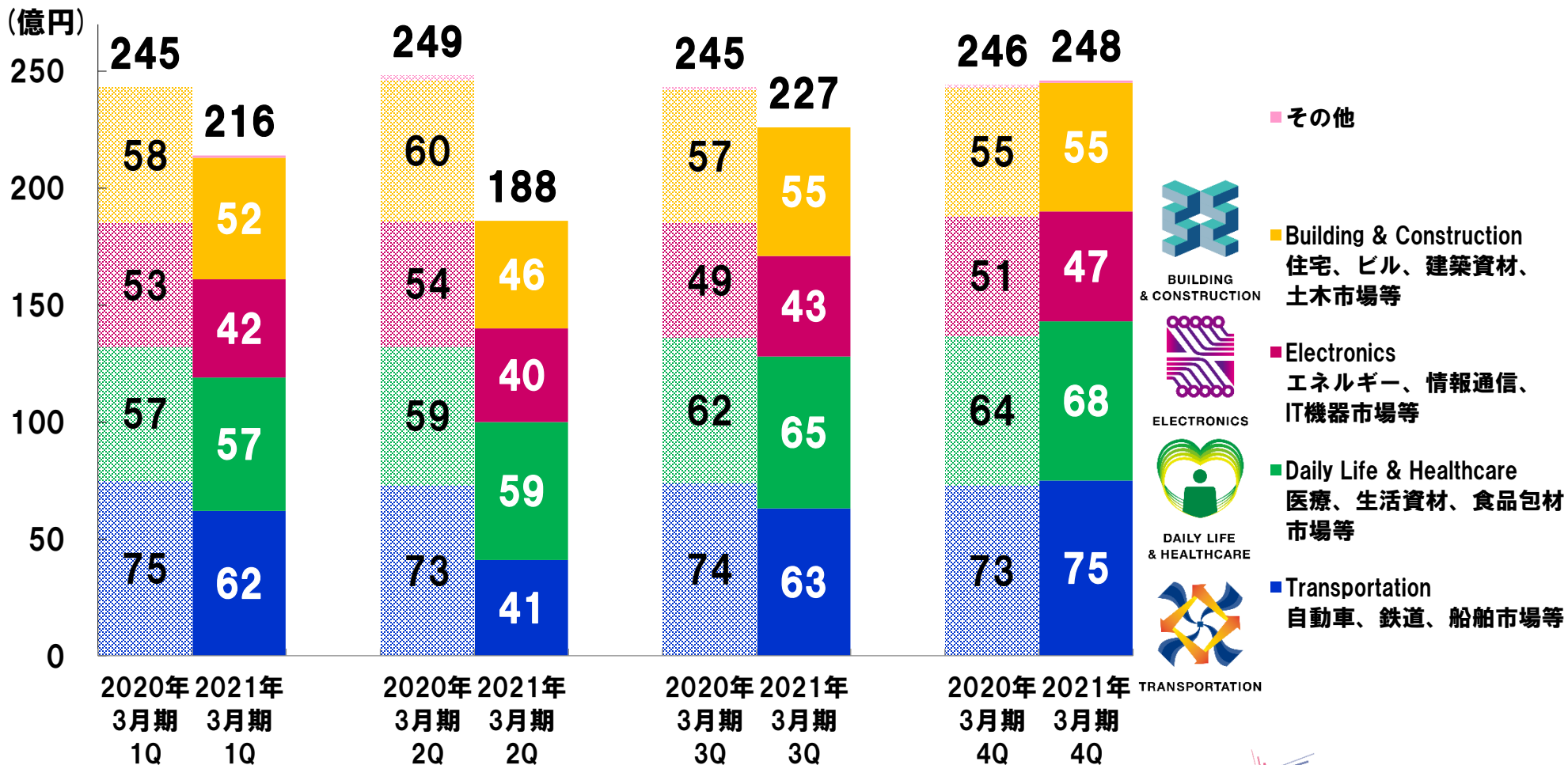


セグメント別売上高推移 -四半期-

2021年3月期 売上高

882億円

前期比105億円減(10.7%減)

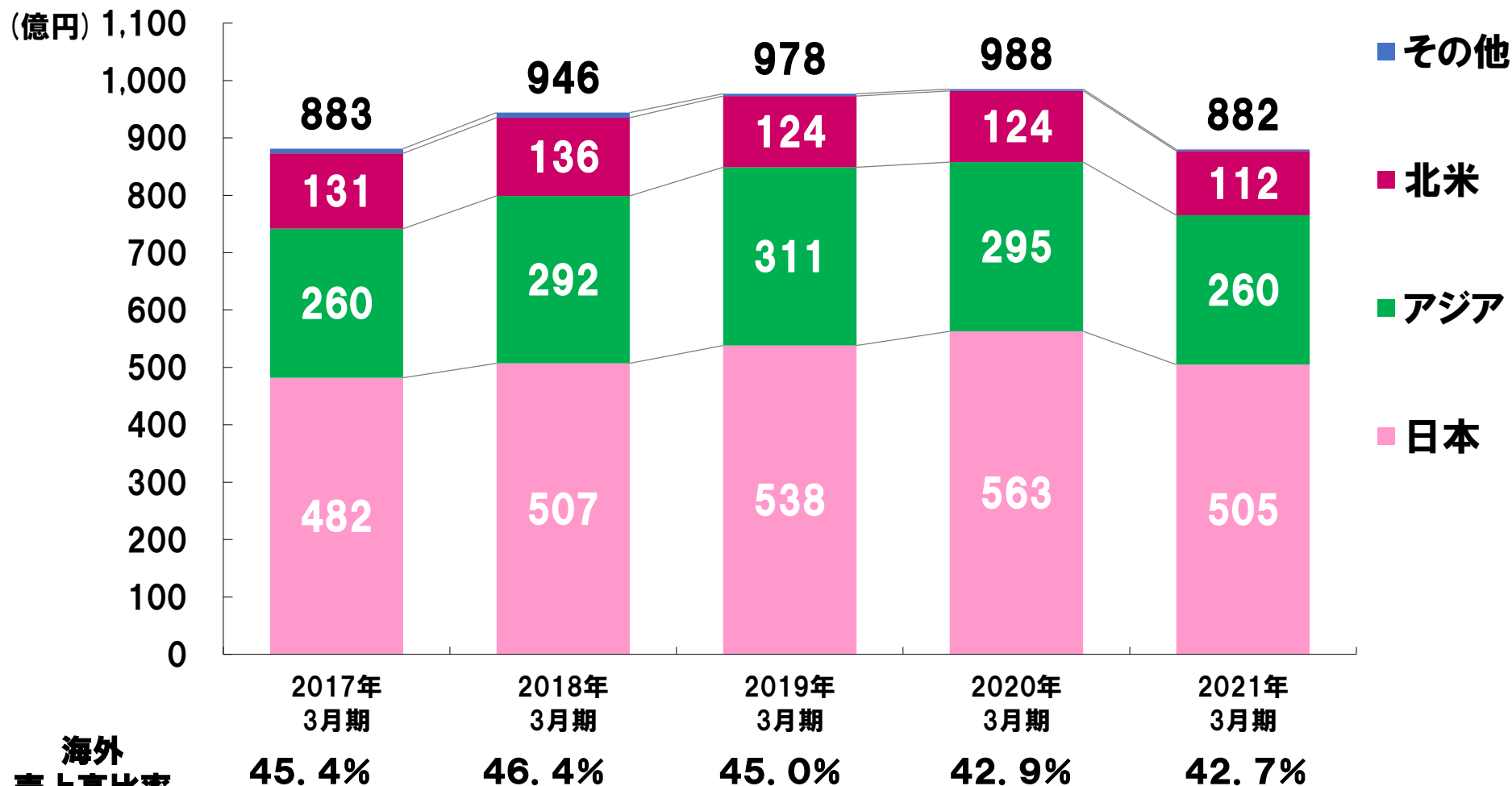


地域別売上高推移

2021年3月期 売上高

882億円

前期比105億円減(10.7%減)

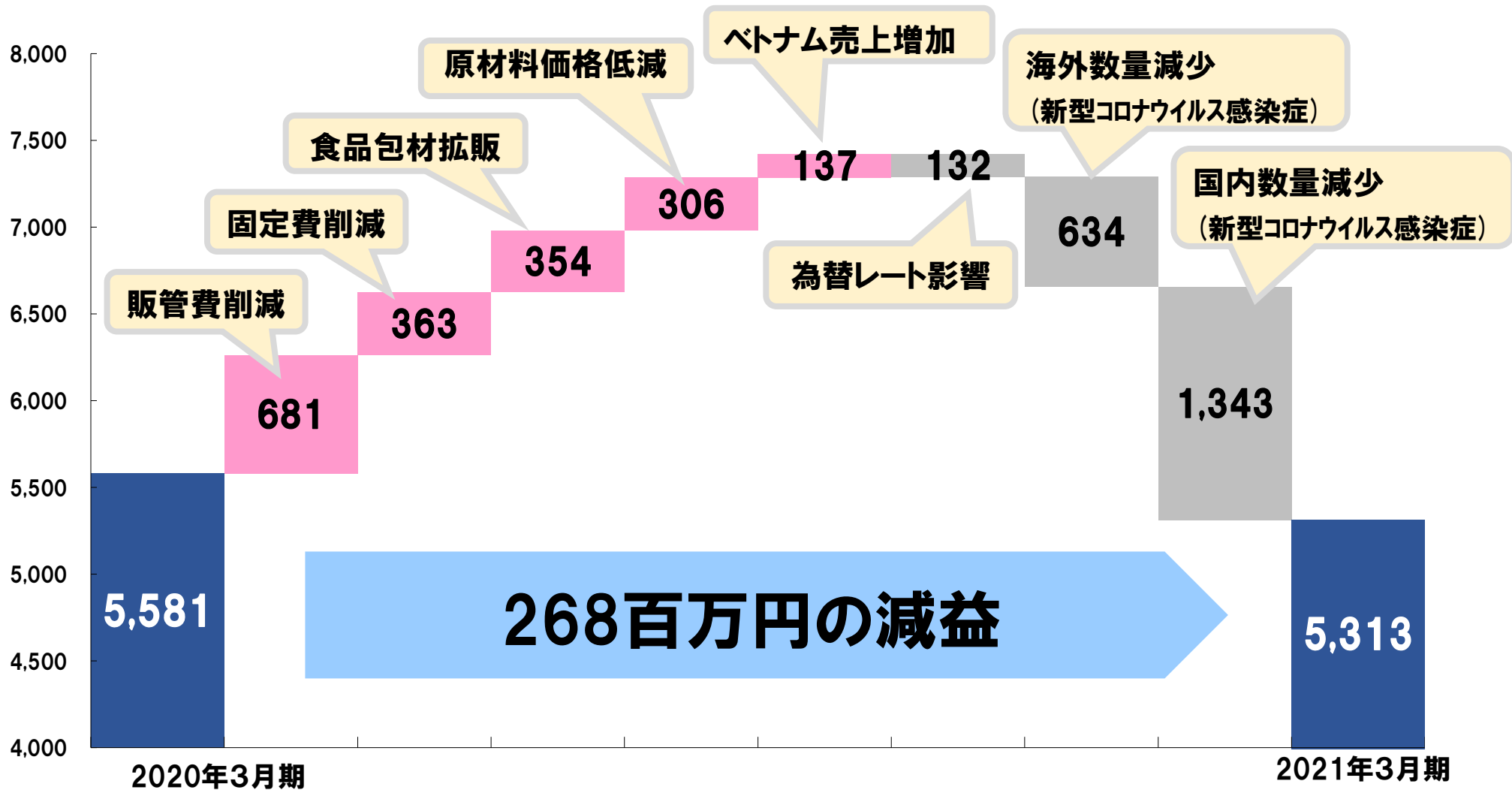


海外
売上高比率



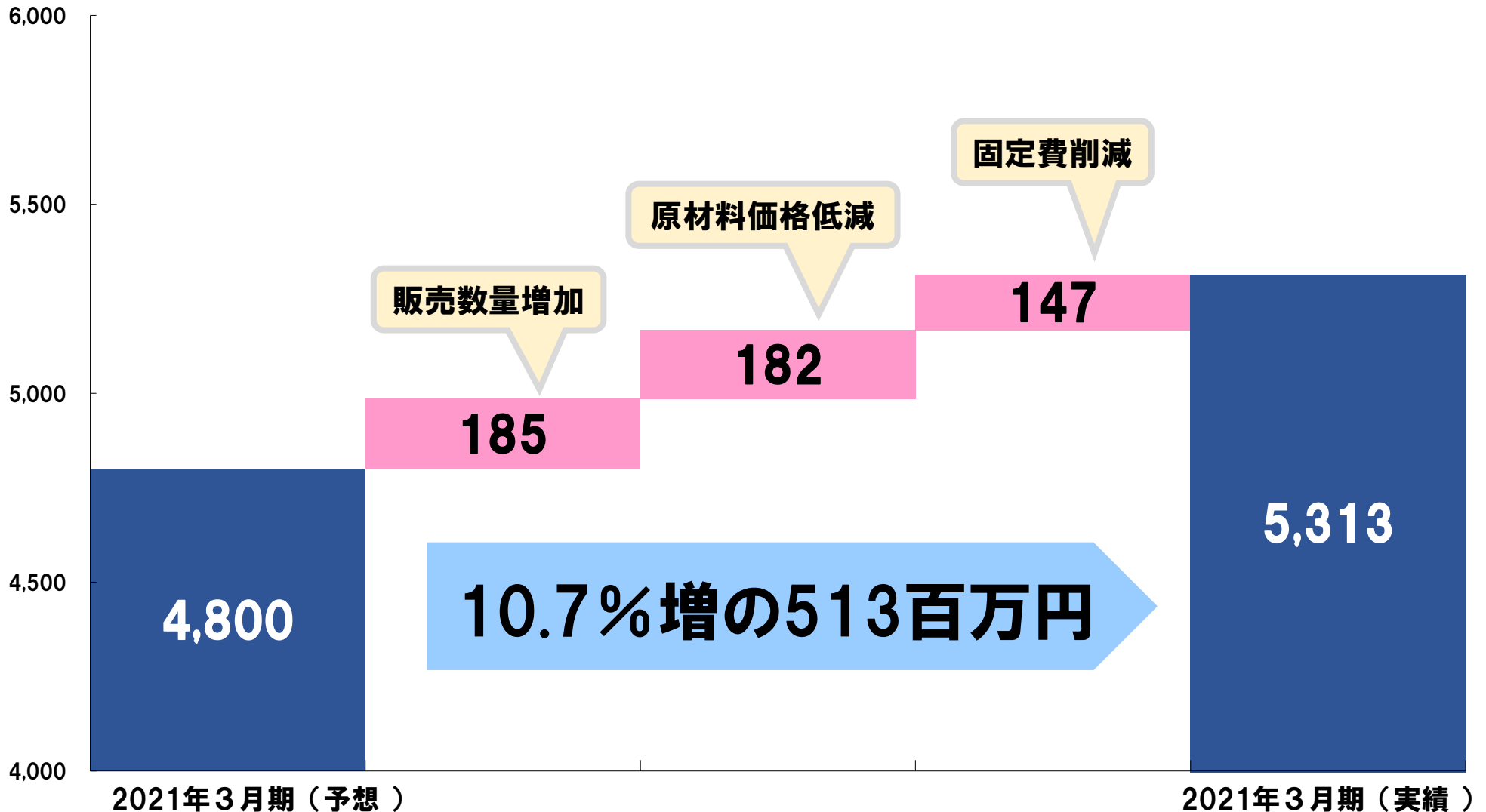
営業利益 前期比 増減要因分析

単位:百万円



営業利益 業績予想比 増減要因分析

単位:百万円



連結貸借対照表 キャッシュ・フロー計算書

連結貸借対照表

資産合計

95,208百万円

前期末比 3,339百万円増

流動資産 57,569百万円

固定資産 37,638百万円

負債合計

34,132百万円

前期末比 150百万円減

純資産合計

61,076百万円

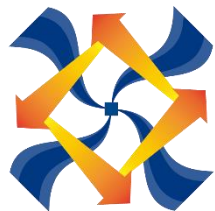
前期末比 3,490百万円増

キャッシュ・フロー計算書

単位：百万円

	当期	前期比
営業 C F	9,387	+582
投資 C F	▲3,002	▲477
財務 C F	▲2,796	+2,683
増減額	3,268	+2,492
期末残高	21,080	+3,268

セグメント別概況



TRANSPORTATION



DAILY LIFE
& HEALTHCARE



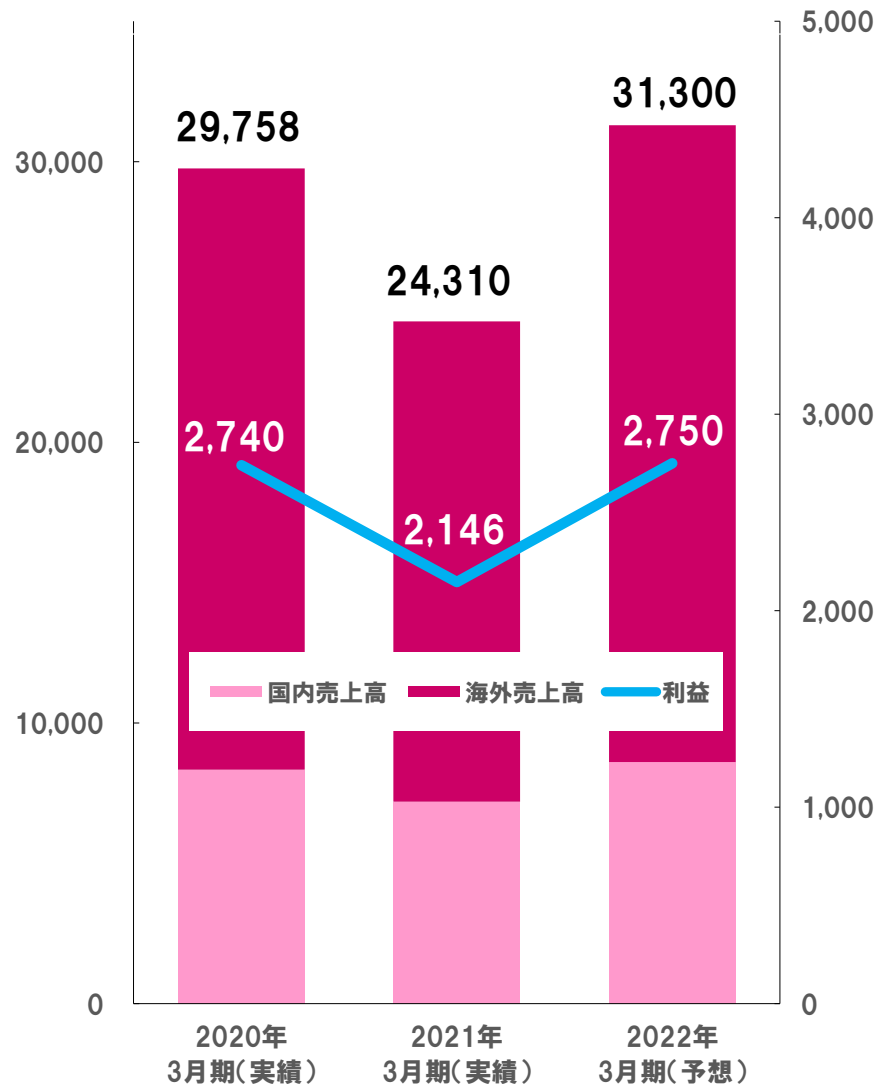
ELECTRONICS



BUILDING
& CONSTRUCTION

I Transportation (TR)

(単位:百万円)



2021年3月期通期実績

5,447百万円減収

594百万円減益

前期比18.3%減

前期比21.7%減

- 国内では、自動車市場が下半期以降回復し、エラストマーコンパウンド販売が増加したが、全体として前年の水準には至らず減収。
- 海外では、中国や北米・ASEAN・インド国で需要が回復基調に推移したものの、全体としては減収。
- セグメント利益については下半期市況の回復は見られたものの、全体として国内・海外共に減益。

2022年3月期業績予想

6,990百万円増収

604百万円増益

前期比28.8%増

前期比28.1%増

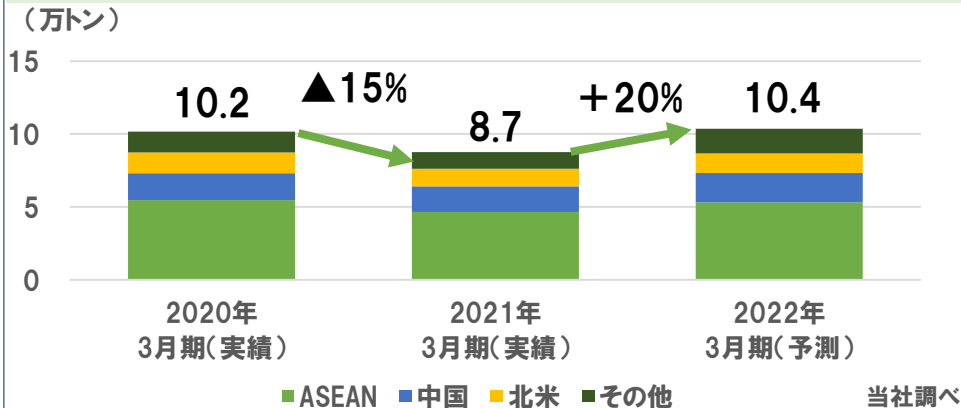
- 国内は、前期比120%に市況が回復する見込み。
- 機能・シール部材用エラストマーコンパウンドの拡販により新規採用を進める。
- 海外では、中国での回復が大きく、ASEAN・北米を含めた全体で前期比120%に市況が回復すると予測。
- 電装用(ワイヤーハーネス)・自動車、2輪成型用コンパウンドの拡販により新規採用を進める。

I Transportation (TR)

重点分野① 自動車用電装(ワイヤーハーネス)

市場動向 (予測)

日系ワイヤーハーネスメーカー地域別コンパウンド使用量



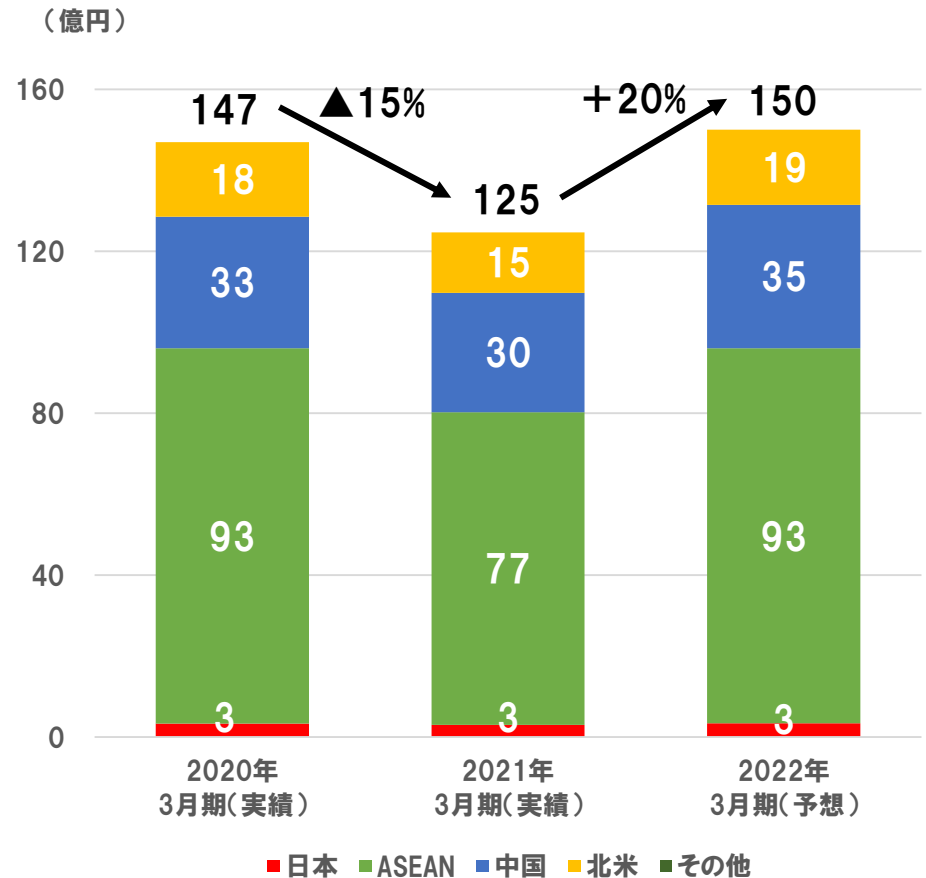
2021年3月期通期実績

- 日系自動車メーカーの全世界生産台数は下期回復基調に推移したものの、全体としては前年の水準に至っていない。その結果、自動車電装用コンパウンドの販売も前年の水準に至らず減収。

2022年3月期通期施策

- 日系自動車メーカーの全世界生産台数は回復傾向のため、受注を確実に取込む。
- ASEAN・中国における自動車電装用コンパウンドの拡販。

ワイヤーハーネス用コンパウンド売上高



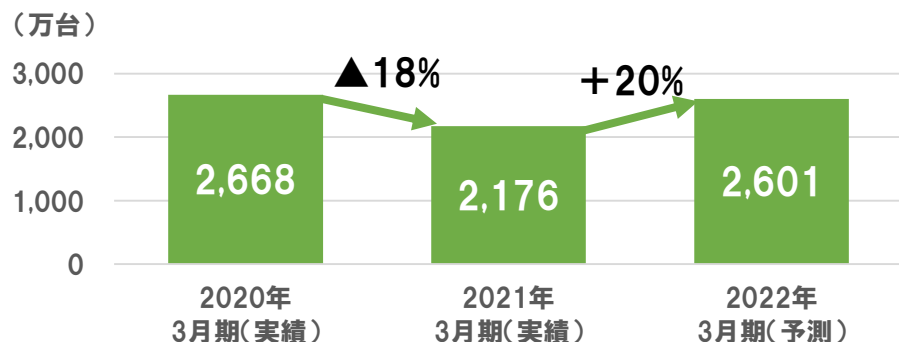
I Transportation (TR)

重点分野② 自動車用成型部材

市場動向 (予測)

日系自動車生産台数

当社調べ



2021年3月期通期実績

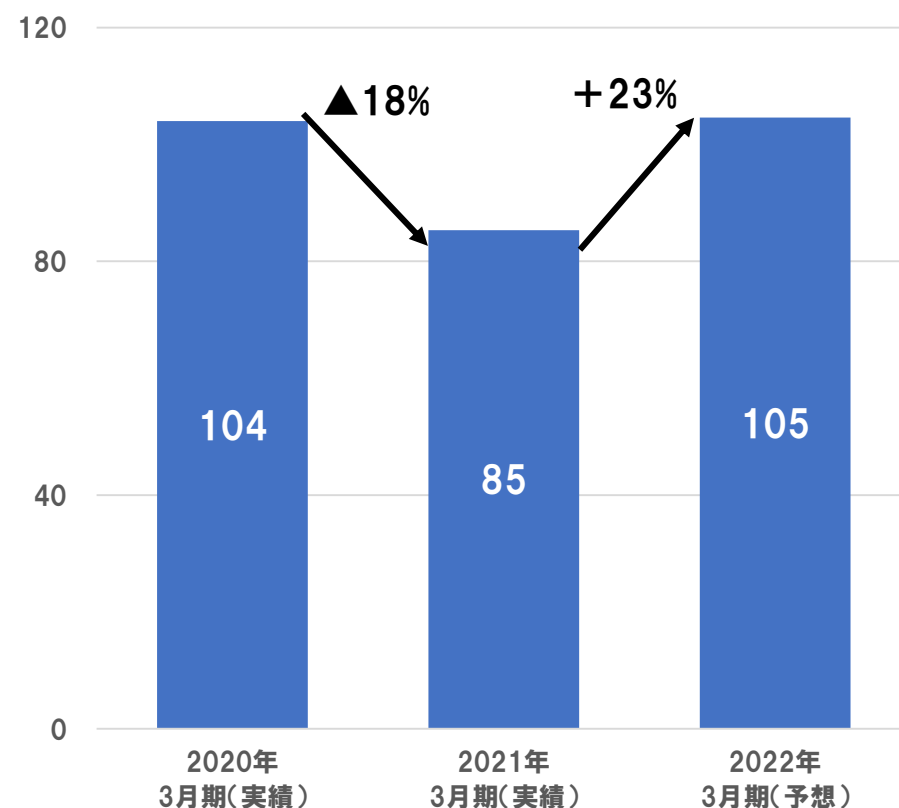
- 日系自動車メーカーの全世界生産台数は下期回復基調に推移したものの全体としては前年の水準に至らず減収。
- 国内では下半期大手部品メーカー向けシール部材及び機能部材の新規採用が進む。

2022年3月期通期施策

- 日系自動車メーカーの全世界販売台数は回復傾向のため、受注を確実に取込む。
- 新規採用が進むシール部材・機能部材を海外工場への展開する。

自動車内外装コンパウンド売上高

(億円)



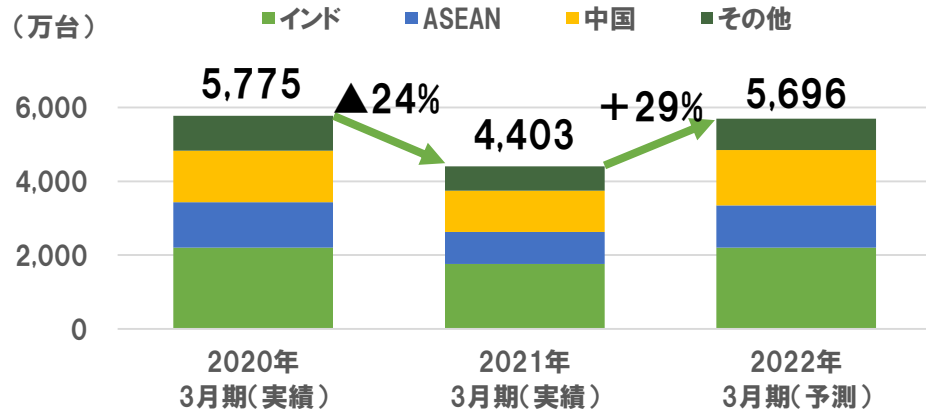
I Transportation (TR)

重点分野③ 2輪車用部材

市場動向 (予測)

2輪車生産台数

当社調べ



2021年3月期通期実績

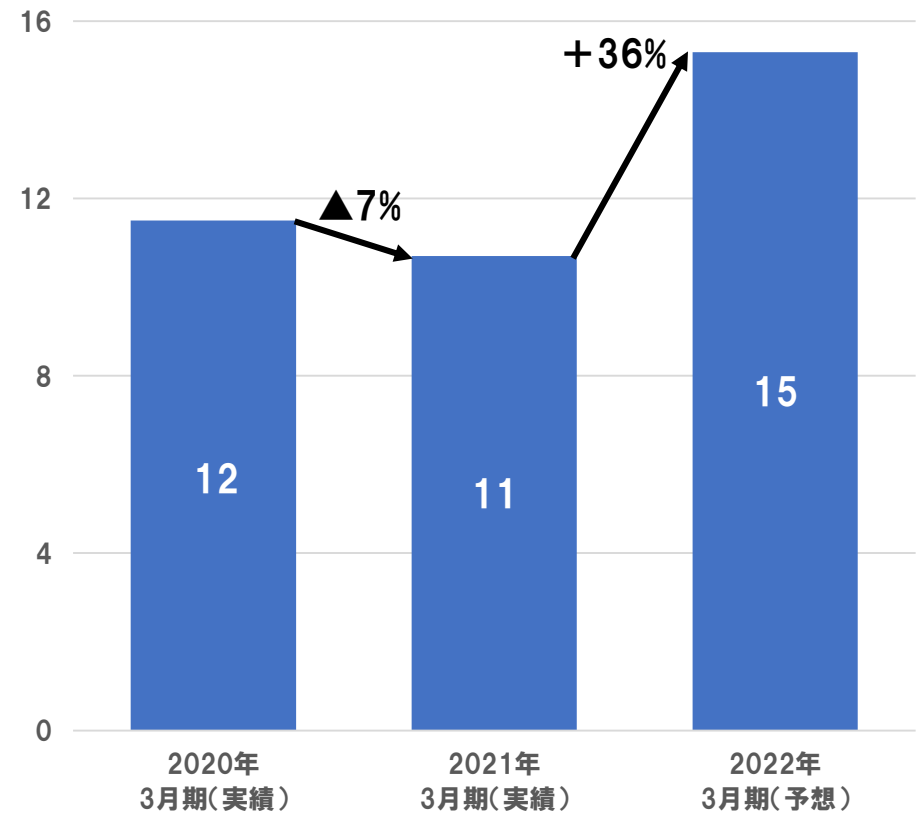
- 未開拓市場であったベトナム国やインド国などで新規顧客開拓が進むも、2輪成型部材用コンパウンドの販売についても前年の水準に至らず減収。

2022年3月期通期施策

- 拠点のあるASEANはしっかりフォローして拡販を強く進める。
- インド国向けはASEANでの実績の展開を継続する。

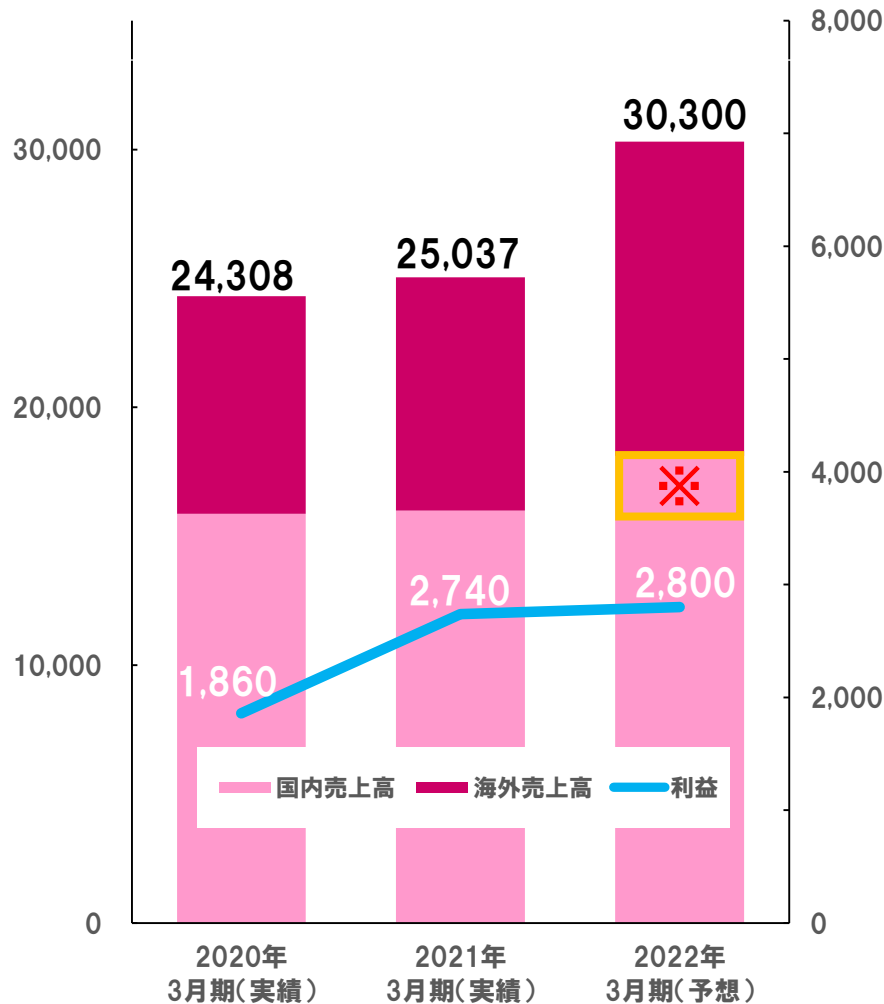
2輪車用部材コンパウンド売上高

(億円)



Ⅱ Daily Life & Healthcare (DH)

(単位:百万円)



※2022年3月期(予想)には、連結子会社の吸収合併に伴い、合併後にリケンテクノスで計上される、リケンファプロ分の2022年1～3月の3ヵ月分の売上が含まれております。

2021年3月期通期実績

729百万円増収

880百万円増益

前期比3.0%増

前期比47.4%増

- 国内では、リケガードや業務用ラップの拡販が進み、新型コロナウイルス感染症の影響により生活資材市場向け塩ビコンパウンド及びサイン・メディア用フィルムの販売が減少したものの、全体として増収。
- 海外では、ASEANでの医療市場及び生活資材市場向け塩ビコンパウンドが堅調に推移し、全体として増収。
- セグメント利益は抗ウイルス製品のリケガードの拡販、医療・食品包材市場の拡販により増益。

2022年3月期業績予想

5,263百万円増収

60百万円増益

前期比21.0%増

前期比2.2%増

- 国内では、医療市場向け高機能エラストマーコンパウンドの拡販及び抗ウイルス製品の更なる拡販。食品包材では引き続き新型コロナウイルス感染症による内食需要の取り込みによる業務用ラップ拡販及び家庭用量販店向け小巻ラップの拡販。
- 海外では、ASEANでの医療用塩ビコンパウンドの拡販。

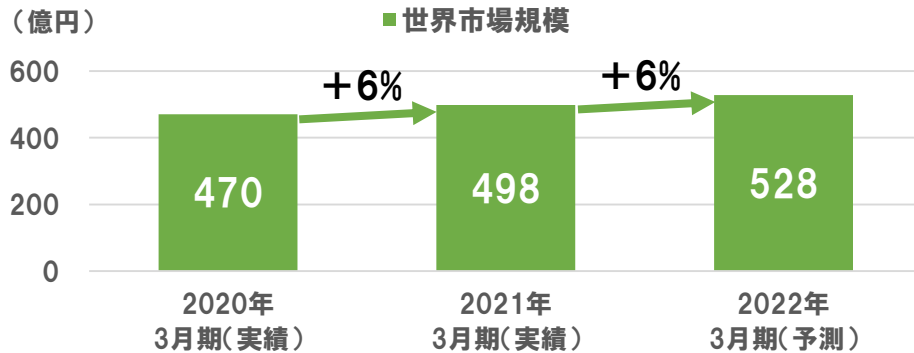
Ⅱ Daily Life & Healthcare (DH)

重点分野① 医療用

市場動向 (予測)

医療用透析回路材料市場

当社調べ



2021年3月期通期実績

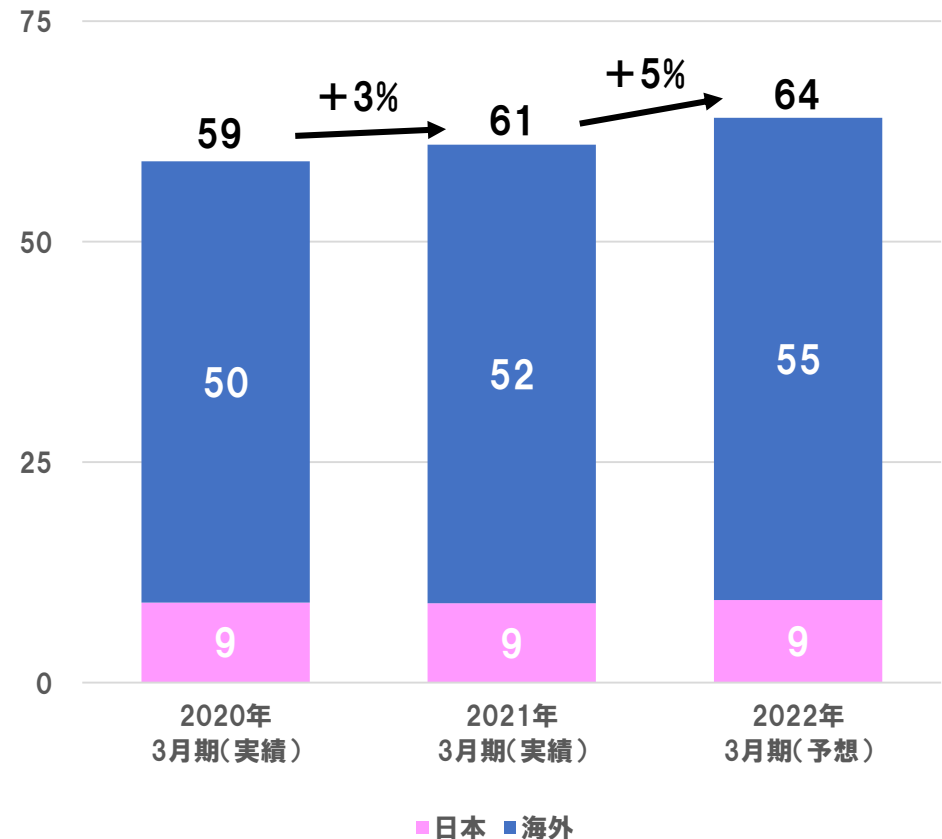
- ・国内では、新規に高機能エラストマーコンパウンドの拡販が進むも新型コロナウイルス感染症により通院患者数減少もあり、売上は横這い。
- ・海外では、ASEANでの日系顧客増産に対応し、塩ビコンパウンド拡販と共に非日系顧客への採用が確実に進捗。

2022年3月期通期施策

- ・国内では、高機能エラストマーコンパウンドの拡販を進める。
- ・海外では、ASEANでの日系顧客増産に対応し、塩ビコンパウンド拡販を進める。

医療用コンパウンド・フィルム売上高

(億円)

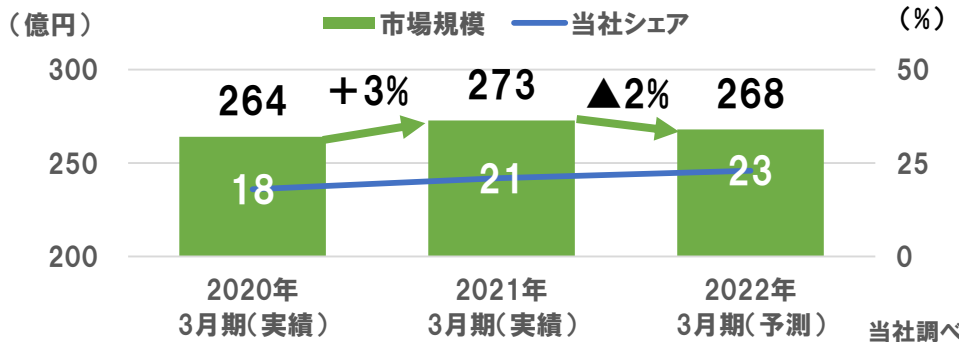


Ⅱ Daily Life & Healthcare (DH)

重点分野② 食品包材

市場動向 (予測)

日本の業務用ラップ市場 (食品用途ストレッチ・シュリンクフィルム)



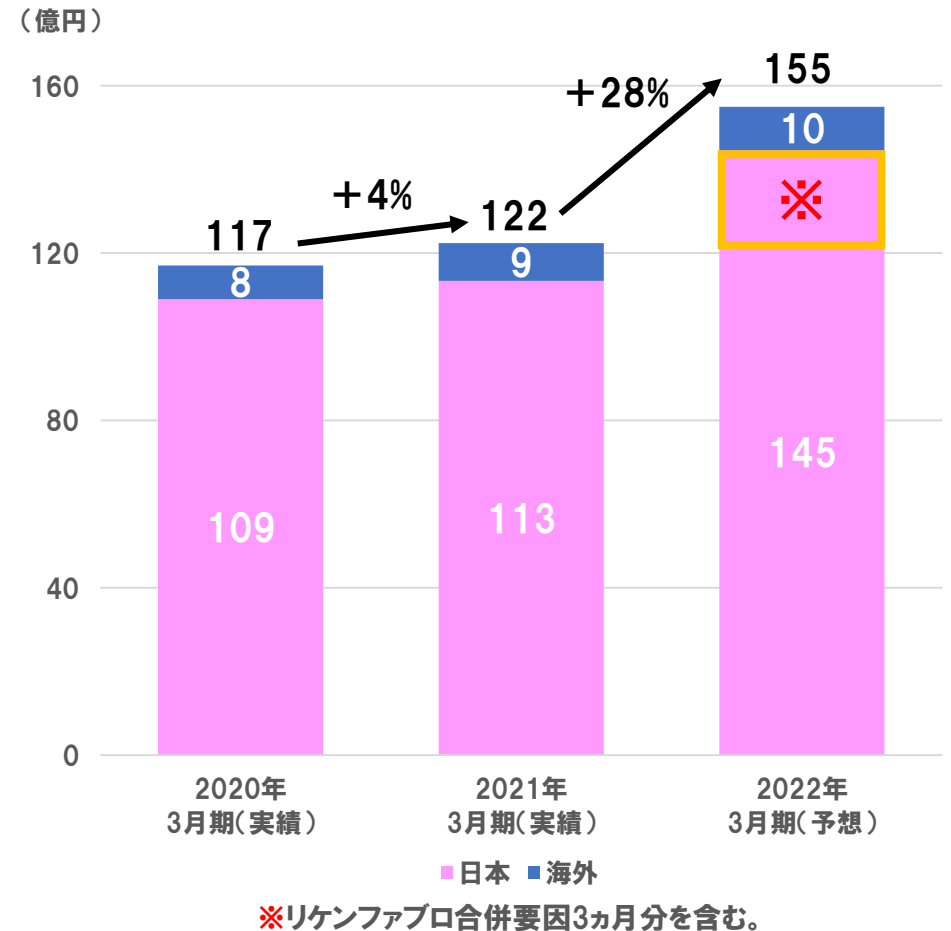
2021年3月期通期実績

- 業務用ラップは、新型コロナウイルス感染症による内食需要を取り込み、増収。
- 小巻ラップは、内食需要を取り込み家庭用向けは堅調に推移したが新型コロナウイルス感染症による外食産業向けは減収。

2022年3月期通期施策

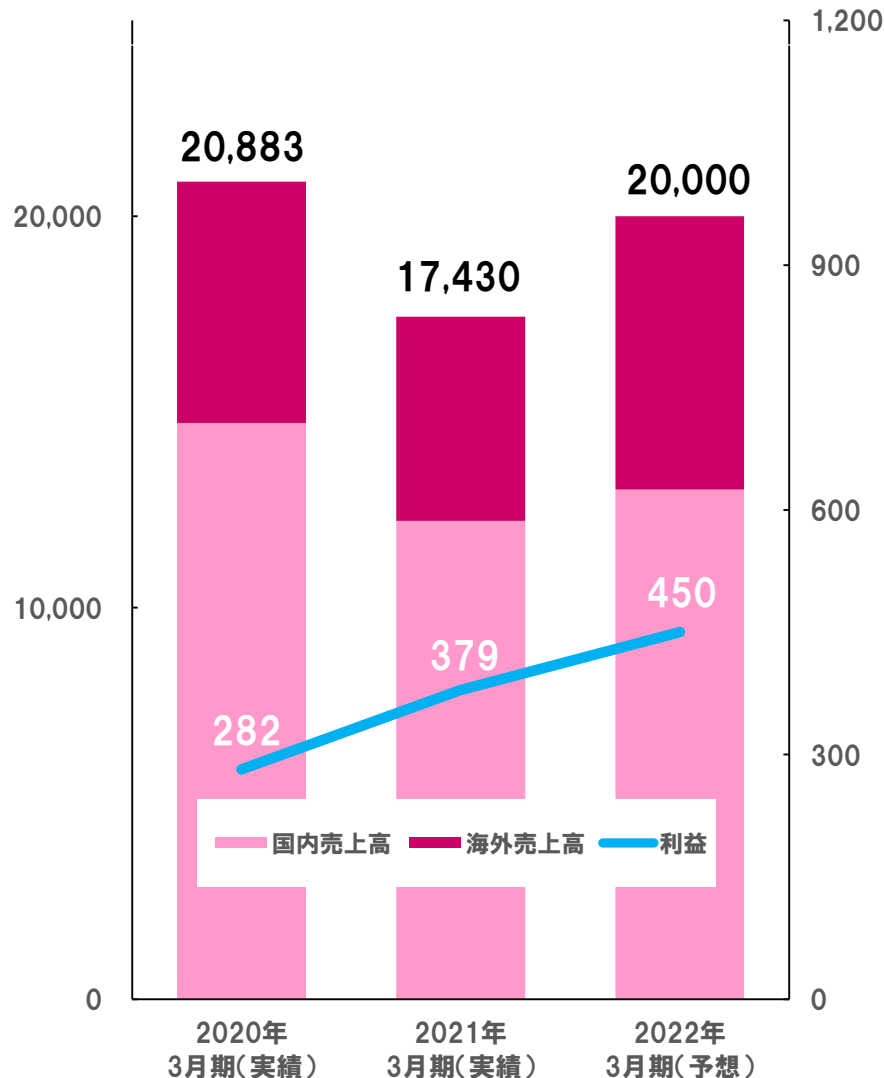
- 業務用ラップは、引続き内食需要の取り込みを行い、スーパー向けの拡販に注力。
- 小巻ラップは、家庭用量販店への新規拡販と、新規販路を開拓し拡販。

食品包材売上高



III Electronics (EL)

(単位:百万円)



2021年3月期通期実績

3,453百万円減収

96百万円増益

前期比16.5%減

前期比34.3%増

- 国内では、抗ウイルスフィルムのリケガードの販売が進んだが、新型コロナウイルス感染症の影響により、エネルギー市場への塩ビコンパウンドの販売が前年を下回り、全体として減収。
- 海外では、北米・タイ国での塩ビコンパウンドの販売はシェア拡大により増加したが、インドネシア国におけるエネルギー市場向け塩ビコンパウンドの販売が低迷し全体として減収。
- セグメント利益は、リケガードの拡販により増益。

2022年3月期業績予想

2,570百万円増収

71百万円増益

前期比14.7%増

前期比18.9%増

- 国内では、エネルギー市場の回復を確実に捉え、また電線メーカーとの協働を行い塩ビコンパウンドの販売拡大する。更に新規ルートでのリケガードの販売拡大により増収を狙う。
- 海外では、ASEANおよび北米での大手電線メーカーへのアプローチを強めることで、シェア拡大を継続し塩ビコンパウンドの拡販をめざす。また、市場回復基調の東南アジアでの自動車用フィルムの販売拡大を見込む。



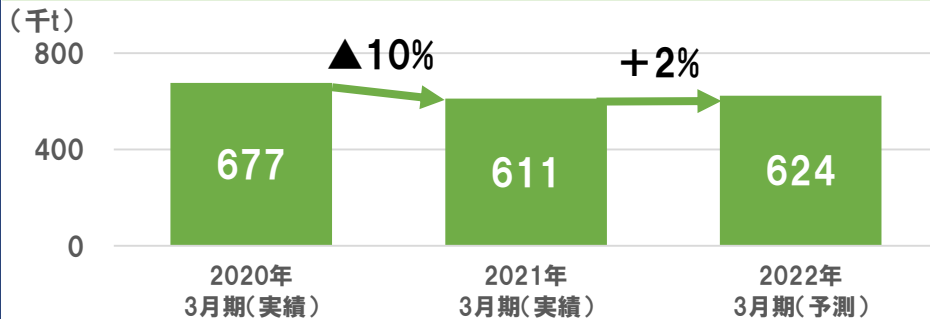
Ⅲ Electronics (EL)

重点分野① 電力・通信インフラ

市場動向 (予測)

国内電線の需要量

出典: 日本電線工業会



2021年3月期通期実績

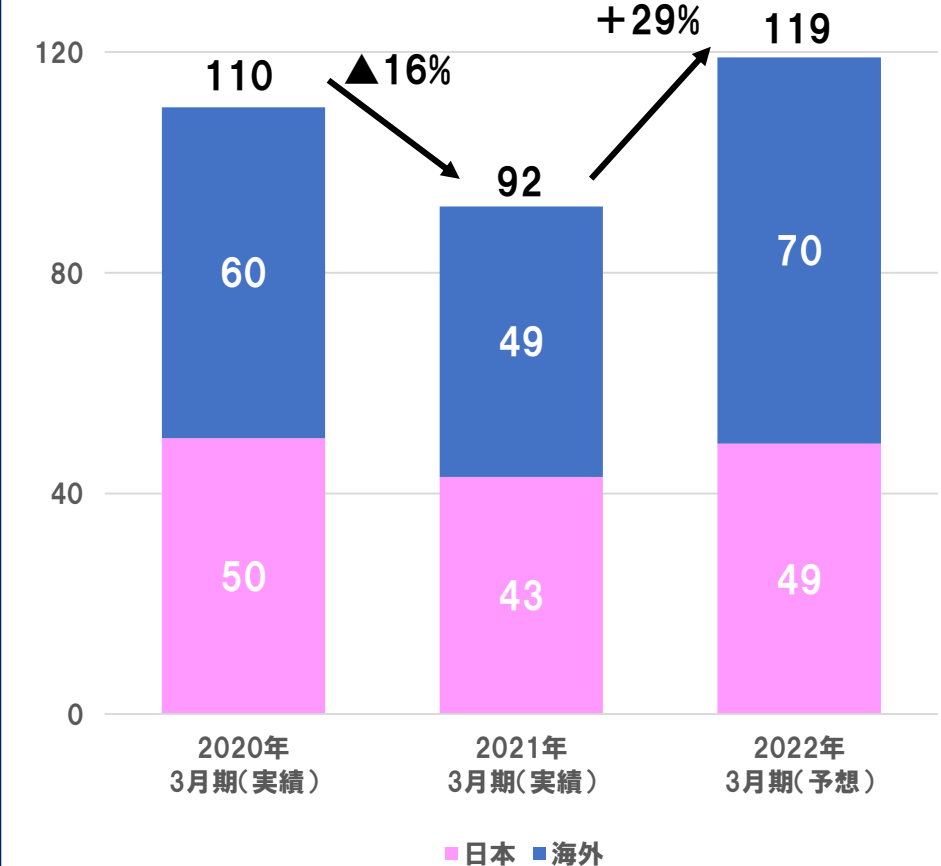
- 国内では、新型コロナウイルス感染症の影響により低迷したエネルギー市場への塩ビコンパウンドの販売が前年を下回り減収。
- 海外では、インドネシア国における電力網整備の投資が落ち込み塩ビコンパウンドの販売が低迷し、減収。

2022年3月期通期施策

- 国内では、エネルギー市場の回復基調に対し、顧客への合理化提案などを進めることで塩ビコンパウンドの販売拡大を実施する。
- 海外では、ASEANおよび北米でエネルギー市場へのシェア拡大を継続し、塩ビコンパウンドの販売拡大を行う。

電線用コンパウンド売上高

(億円)



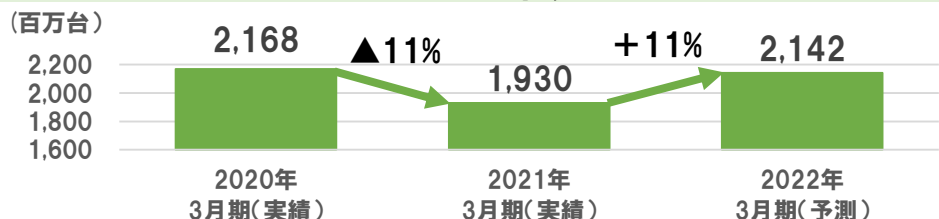
Ⅲ Electronics (EL)

重点分野② 光学フィルム

市場動向 (予測)

モバイル市場

当社調べ



非モバイル市場(車載EV・産業)

当社調べ



2021年3月期通期実績

- ・スマホ、タッチパネル、モニター等のモバイル・産業ディスプレイ用途にリケガード多数採用。
- ・次世代モビリティ向けの窓ガラス代替フィルム開発設計に目途。

2022年3月期通期施策

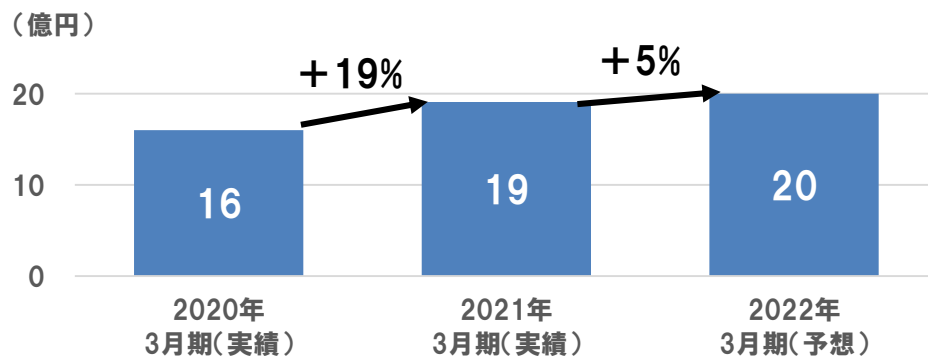
- ・リケガード安定需要取り込み: 継続需要を見込む顧客の獲得、海外ネットワークとの連携による海外市場拡販強化。
- ・機能複合化による更なる市場開拓: 抗ウイルス機能に加え、各種光学技術を融合させた製品の開発・拡販推進。

採用実績および用途例

◆車載・モバイル・一般消費者用機器

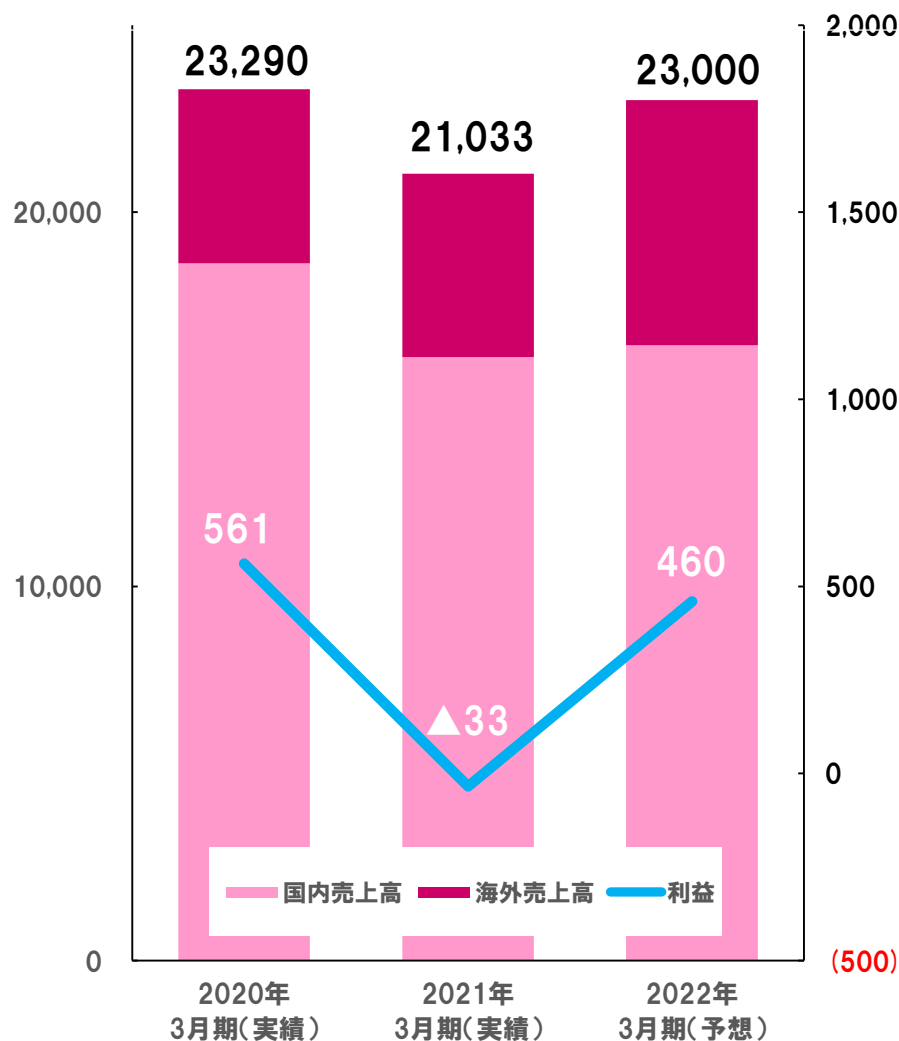


光学フィルム売上高



IV Building & Construction (BC)

(単位:百万円)



2021年3月期通期実績

2,256百万円減収

594百万円減益

前期比9.7%減

前期比 -

- 国内では、新型コロナウイルス感染症の影響により市場が低迷し、減収。
- 海外では、インテリアフィルムの販売は低迷したが、タイ国でのコンパウンドの拡販が進み、増収。
- セグメント利益は販売減少により減益。

2022年3月期業績予想

1,967百万円増収

494百万円増益

前期比9.4%増

前期比 -

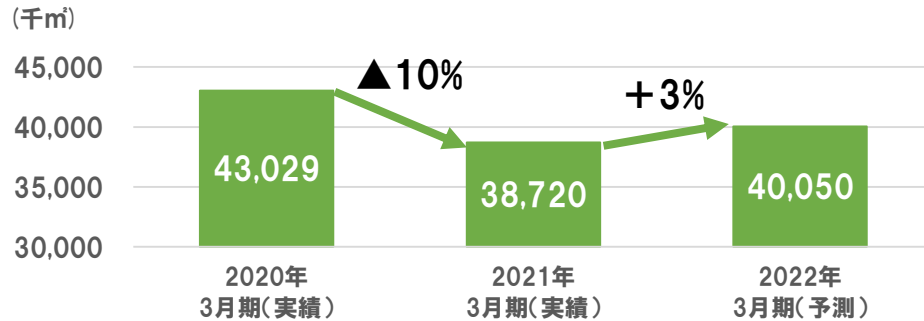
- 国内では、市場の回復基調を確実に捉え増収。新意匠、新機能のインテリアフィルム及び硬質塩ビコンパウンドの拡販。
- 海外では、新意匠フィルムの拡販及びタイ国での実績を足がかりに、ASEANでのコンパウンド拡販。

IV Building & Construction (BC)

重点分野① インテリア

市場動向 (予測)

国内非住宅着工床面積 (建設経済研究所)



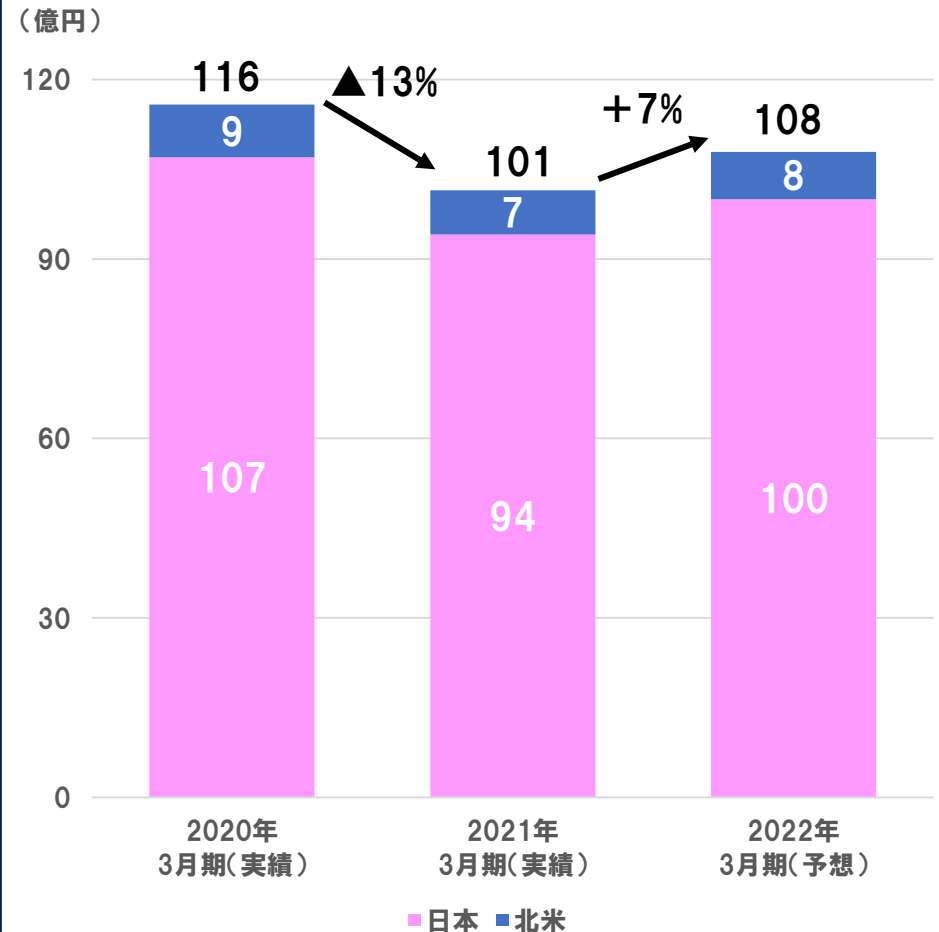
2021年3月期通期実績

- 国内では、後半に回復傾向見られるも市況低迷から脱せず、減収。非住宅市場への新意匠・新機能製品を上市。公共施設へリケガード採用決定。
- 海外では、米国で新意匠製品を上市。

2022年3月期通期施策

- 国内では、前期に投入した新意匠・新機能製品及びリケガードの拡販。浴室市場向け製品を品質による差別化で拡販。海外では、新意匠製品をグローバルに拡販。

インテリアフィルム売上高



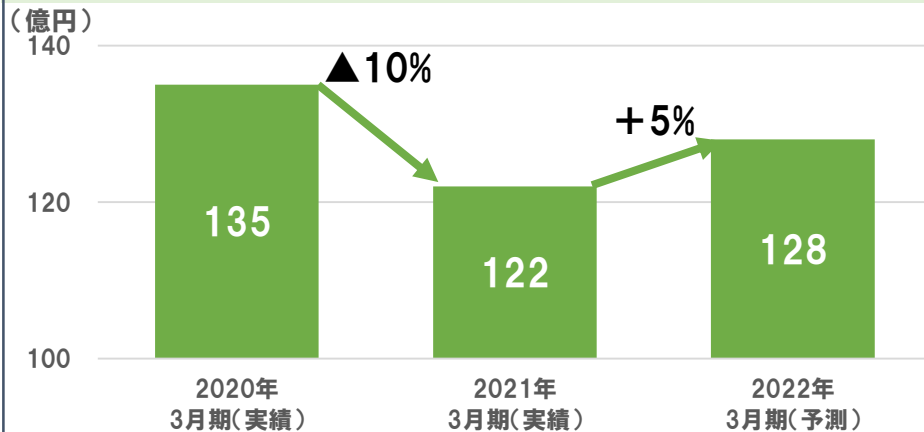
IV Building & Construction (BC)

重点分野② 住宅・建築資材

市場動向 (予測)

日本の住宅・建築資材コンパウンド

当社調べ



2021年3月期通期実績

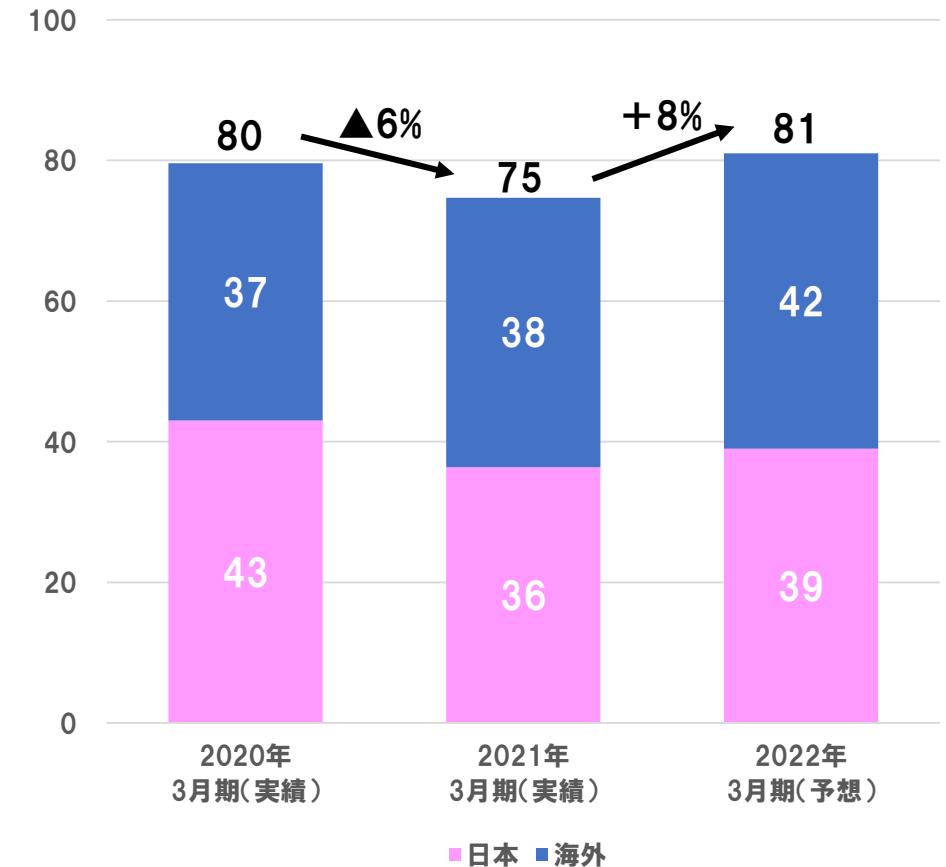
- ・国内では、住宅・建築資材の市況低迷を受けて減収。
- ・海外では、タイ国で塩ビコンパウンドを新市場に拡販。

2022年3月期通期施策

- ・国内では、住宅・建築資材市場は緩やかな回復予測の中、硬質塩ビコンパウンドを中心に拡販。
- ・海外では、ASEANを中心に塩ビコンパウンドを拡販。

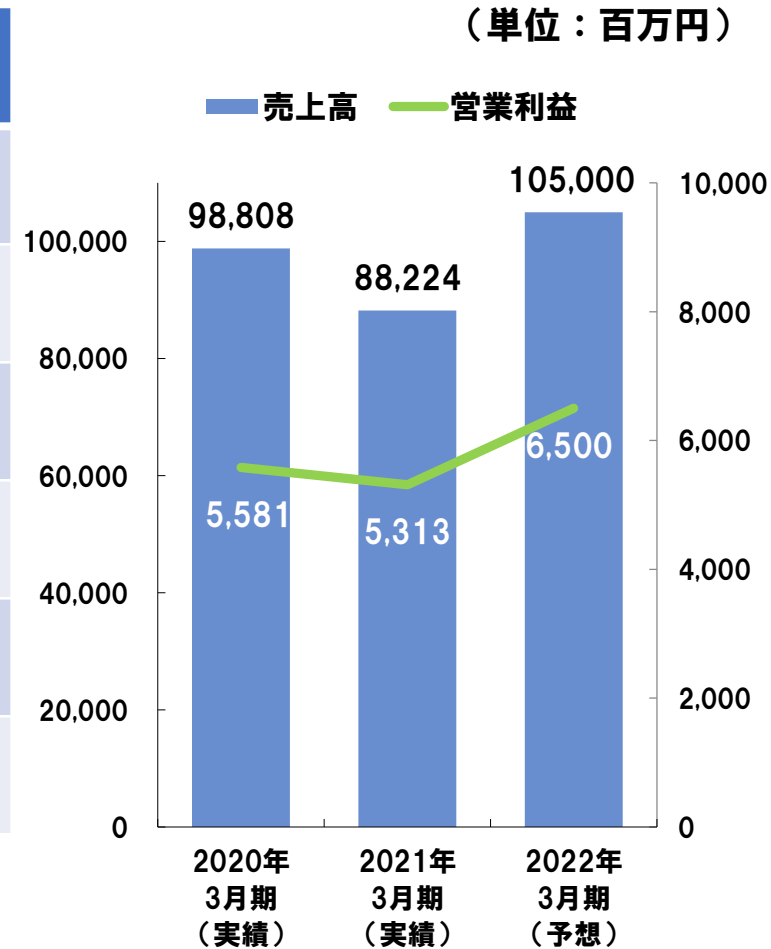
住宅・建築資材コンパウンド売上高

(億円)



2022年3月期 連結業績予想

科 目	2021年 3月期実績	2022年 3月期業績予想※	伸 び 率
売 上 高	88,224	105,000	+19.0%
営 業 利 益	5,313	6,500	+22.3%
経 常 利 益	5,652	6,500	+15.0%
親会社株主に帰属する 当 期 純 利 益	3,234	3,600	+11.3%
1株当り利益(円)	51.22	57.11	+11.5%
R O S	6.0%	6.2%	+3.3%



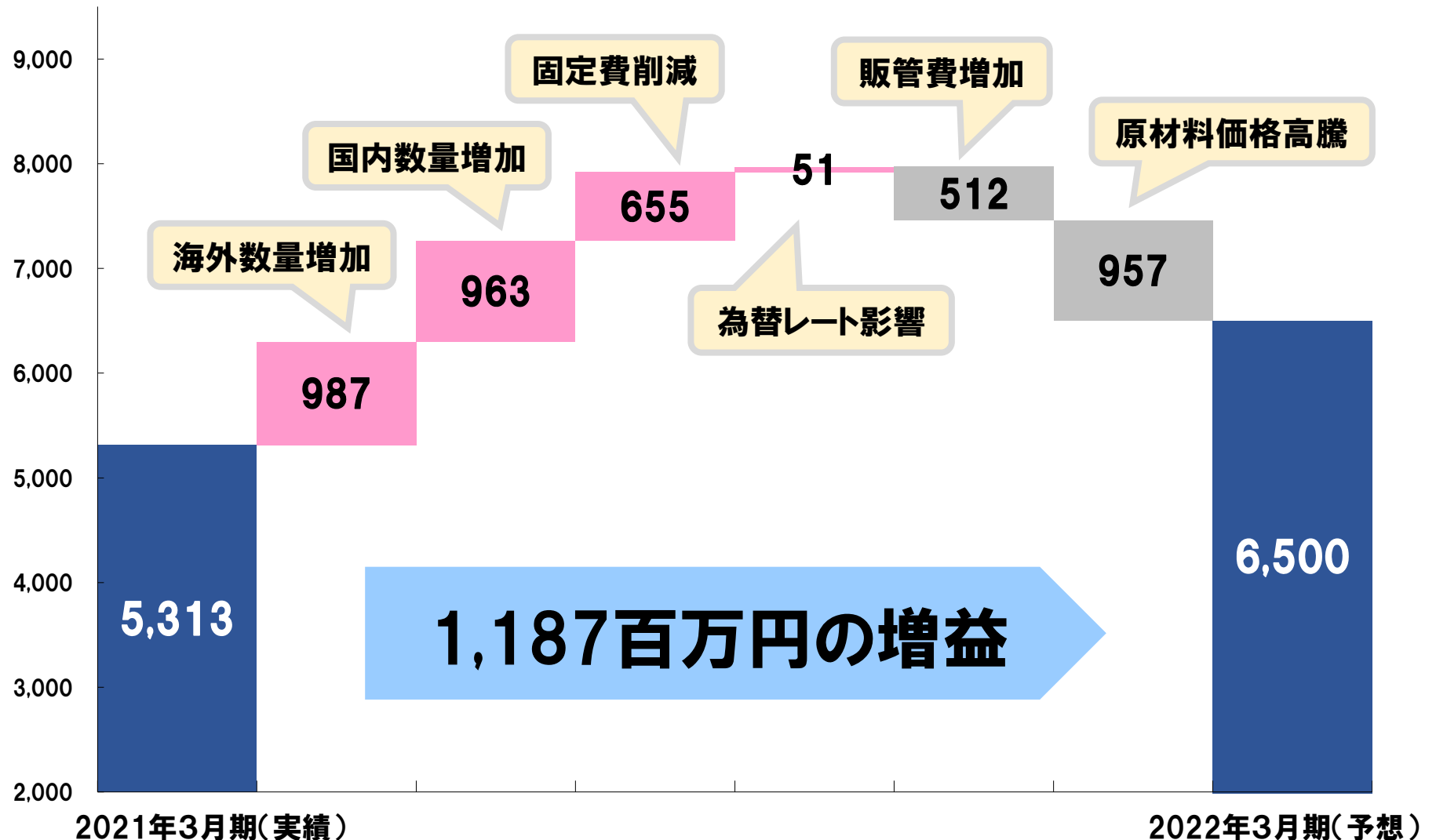
【業績予想のポイント】

- 国内外の経済は、新型コロナウイルス感染症の影響から徐々に持ち直すと予想。
- 塩ビ樹脂や可塑剤の主要原材料について、世界的な景気回復により需要が旺盛となる中、供給タイト感による価格の高止まりを想定。

※業績予想については「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号)等を適用しております。

2022年3月期（予想） 営業利益 増減要因分析

単位:百万円



3カ年中期経営計画進捗

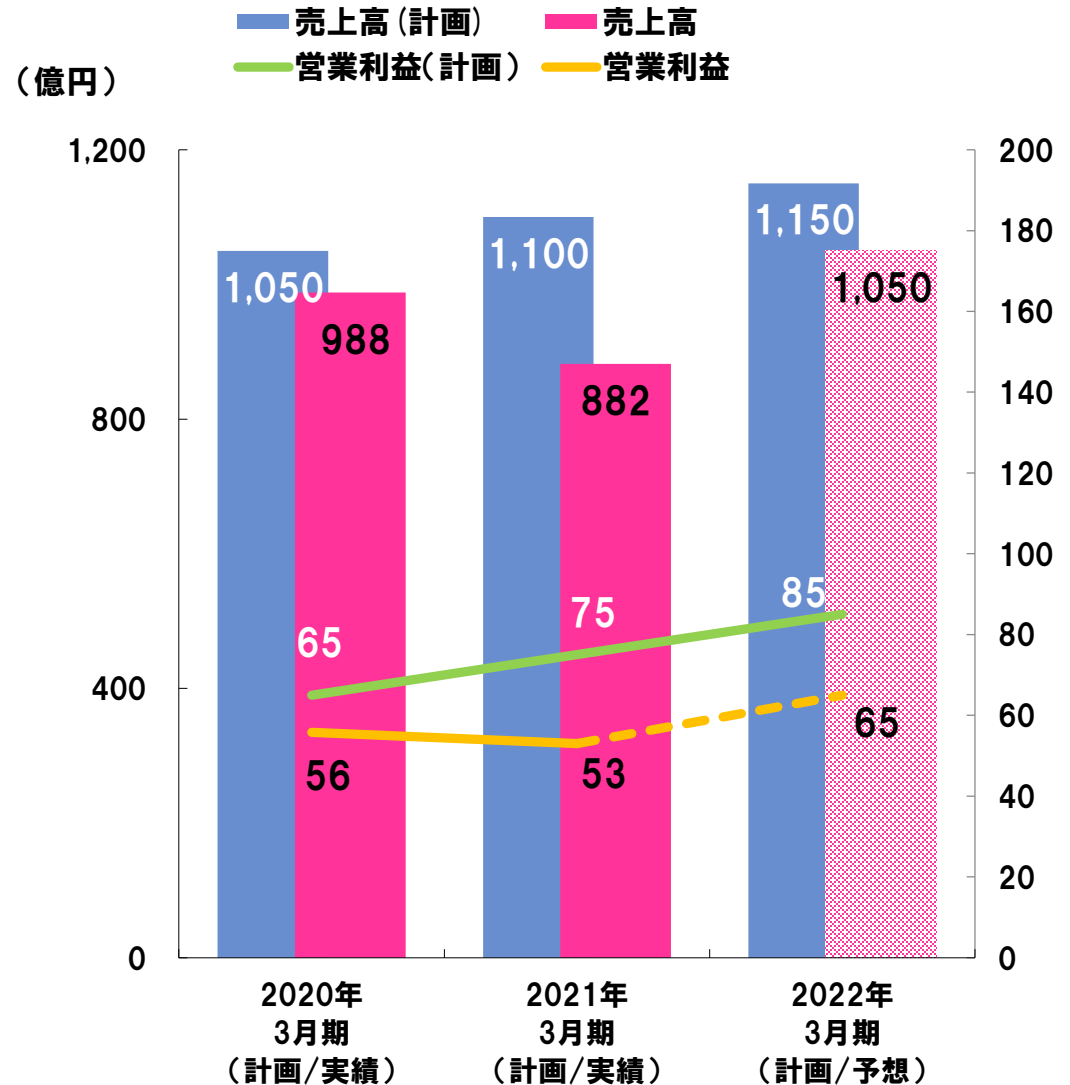


MORE VALUE TO ALL
2 0 2 1



計数計画

連結ベース	2022年3月期 (予想)	2022年3月期 (計画最終年度)
売上高	1,050億円	1,150億円
営業利益	65億円	85億円
経常利益	65億円	85億円
当期純利益	36億円	50億円
ROS	6.2%	7.0%
ROE	6.6%	8.0%



5つの主要課題

1

グローバル経営の深化とシナジー

2

戦略思考による収益力向上

3

効率を極めた生産体制の実現

4

サステナブルな社会への貢献

5

人材育成とガバナンス重視の経営による
企業体質の強化

5つの主要課題

1

グローバル経営の深化とシナジー

海外拠点の経営レベルの深化

2021年3月期までの実績

- グローバル経営を意識した組織のもと、各部門におけるグローバル運営の強化とコロナ禍における課題への迅速対応
- ASEANコンパウンド事業への注力により、非日系新市場に販売拡大
- 自動車窓ガラス用遮熱フィルム「ICE-μ」にかかる事業を譲受

グローバルにシナジーを発揮

2022年3月期の重点施策

- グローバルな生産体制の最適化（ASEAN/米国増設着手）
- アジアにおけるコンパウンド事業戦略の更なる強化
- 海外子会社ガバナンスの高度化に注力

5つの主要課題

2

戦略思考による収益力向上

高付加価値製品の販売強化

効率的な利益の向上

2021年3月期までの実績

- インфекションコントロール製品
リケ+ガードの拡販
- 旭化成よりACS資産譲受と製造の確立
- 管理業務のシェアード推進による経費削減の実現および、子会社システム統合に向けた取り組み開始
- デザイン子会社(IMI)と協働で新市場へのマーケティング開始

2022年3月期の重点施策

- リケ+ガード新機能付与によるラインナップ拡充
- ACS樹脂の新規市場開拓
- シェアードの更なる拡張と子会社システム統合の推進
- 経営資源の集約を通じたグループ経営の効率化実現
- 物流改革によるコストダウン

5つの主要課題

3

効率を極めた生産体制の実現

生産の効率化

2021年3月期までの実績

- 新規高吐出エラストマーラインの増設
- 生産ライン自動化の設備設計完了
- IoT活用による設備の予兆管理開始
- 国内外の生産情報の可視化
- 生産管理プロセス指針の確立

グローバルでのもの造り強化

2022年3月期の重点施策

- ASEAN/米国での生産設備増設着手
- 自動化/省力化設備及び予兆管理システムの導入拡大
- 工場共有設備の総点検/再構築によるエネルギーコスト削減
- グループ全体での生産性向上によるグローバル生産コストの削減

5つの主要課題

4

サステナブルな社会への貢献



2030年に向けて
世界が合意した
「持続可能な開発目標」です

持続可能な社会を目指し、主要課題に沿ってSDGsへの取組みを強化しております。
新しい取組みについては、トピックスでご紹介します。

- ①グローバル経営の深化とシナジー
- ②戦略思考による収益力向上

12 つくる責任
つかう責任



リサイクルできないゴム製品
の代替となる熱可塑性エラス
トマーを拡販。



食品包材では
食品を衛生的に保ち
余った食品を保存する
などフードロス削減に貢献

- ③効率を極めた
生産体制の実現

6 安全な水とトイレ
を世界中に



化学物質と廃棄物
の適正な管理



- ④サステナブルな
社会への貢献

3 すべての人に
健康と福祉を



抗菌、抗ウイルス
のリケガード製品
の販売



- ⑤人材育成と
ガバナンス重視
の経営による
企業体質の強化

1 貧困を
なくそう



United Way
of the Pennyrile
Business Partner

全主要課題共通のSDGs

17 パートナリシップで
目標を達成しよう



すべての主要課題をステークホルダーの皆さまとの
パートナーシップで解決してまいります。



5つの主要課題

5

人材育成とガバナンス重視の経営による 企業体質の強化

グローバルに活躍できる人材の育成

グループガバナンスの強化

あらゆるステークホルダーに配慮した持続可能な経営の実現

2021年3月期までの実績

- 人材強化を狙いとした人事制度・研修制度の見直し
- 様々な採用手法による新卒・中途採用の実施(WEB説明会・面接、ダイレクトリクルーティング等)
- コーポレート・ガバナンスポリシーの制定
ガバナンス強化のための方針・規程の制定
- 自社株買い(2,800千株)・消却(2,000千株)によるROE改善

2022年3月期の重点施策

- サクセッション・プランに基づいた研修制度
体系の再構築
(選抜研修強化⇒コア人材の創出)
- 通年採用による人材強化(人材の多様性)
- 連結子会社のガバナンス・内部統制の強化
- 資本政策による時価総額増強
- 働き方改革による業務効率化

設備投資

3ヵ年中期経営計画期間中の設備投資見込み合計：134億円

単位：億円 ※メンテナンスを含む。

年度	主な設備投資	総額	減価償却費	研究開発費
2020年3月期 (実績)	国内エラストマー増設 タイITシステム更新 効率化設備投資	43	38	15
2021年3月期 (実績)	研究開発センター増築 効率化設備投資	44	37	23
2022年3月期 (予測)	タイ医療用生産設備増設 子会社システム統合 効率化設備投資	47	32	19

- ・2021年3月期は、研究開発費に研究開発センター増築分を含む。
- ・2022年3月期は、ASEAN/米国等海外生産能力拡張投資に着手。

トピックス①

抗菌・抗ウイルス製品

リケ+ガード[®]

の販売状況

採用事例

イーネット

画面とテンキーに使用



ファミリーマート

コーヒーマシンに使用



セブン&アイ

レジに使用



各種手すり・取っ手

曲面部分へ



リケガード[®]シリーズの拡販と新機能充実

優れた安全性

抗菌

効果長持ち

抗ウイルス

開発中

防虫

開発中

消臭

抗アレルギー

トピックス②

「Blue Challenge」の推進



トピックス②-1

「Blue Challenge」の推進

リケンテクノスグループ各拠点のBlue Challengeを一部ご紹介します。

埼玉工場

12 つくる責任
つかう責任



「ゼロカーボン埼玉」へ
クレジット提供



RIKEN ELASTOMERS CORPORATION

15 陸の豊かさも
守ろう



持続可能な開発のため
に豊かな自然を守る



RIKEN VIETNAM CO., LTD.

5 ジェンダー平等を
実現しよう



女性にも活躍の場を
提供して男女格差を
解消



トピックス②-2

「Blue Challenge」の推進

バイオマスコンパウンド「RIKEBIO®」の上市

➤ 特徴

幅広い硬さ領域

石油由来コンパウンドと同等の品質・性能

➤ ラインナップ

軟質塩ビ系	日用雑貨、建築材料
TPE系	日用雑貨、パッキン、グリップ、車両用部材 耐熱シーリング材

軟質PVCは
バイオマス度40%にて
日本有機資源協会の
バイオマスマークを取得



トピックス③

ASEAN市場での販売拡大

RIKEN (THAILAND) CO., LTD.は従来の製品ラインアップに、SCG Chemicals Co., Ltd. の子会社Thai Plastic & Chemicals Plc. Co., Ltd.が開発した現地需要に対応する塩ビコンパウンド製品を取り込み、両社のタイ国でのコンパウンド事業を一本化。

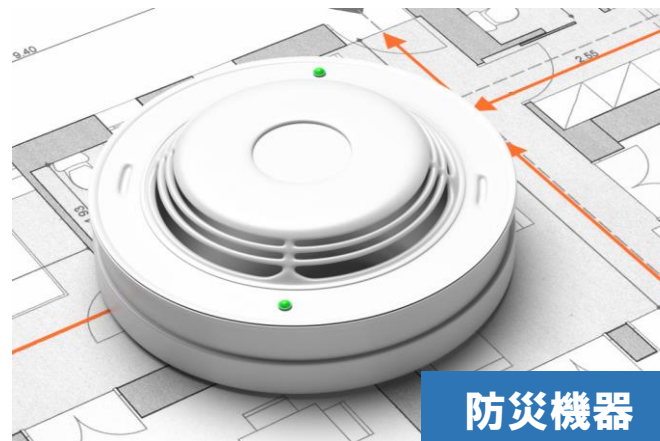
追加された製品群を活用してASEAN市場においても、非日系顧客向け取引の拡大と新たな市場・用途に展開。



トピックス④

「ACS樹脂」資産の譲受

旭化成株式会社が保有した「ACS樹脂」にかかる技術情報・営業情報・知的財産等の資産を譲受。



ACS樹脂の製造を確立し、2021年4月より製造販売を開始。
当社の配合加工技術により、優れた耐候性・難燃性・電気特性という特徴を最適化し、
他樹脂との差別化を行い、国内外で新たな市場に参入。

トピックス⑤

リケンファブロの合併

100%連結子会社のリケンファブロ株式会社を合併により一体化することで、経営資源の集約を通じた一層のグループ経営の効率化を実現すると共に、食品包材事業における開発力/営業力の向上を実現。

合併予定日(効力発生日)：2022年1月1日

合併の方式：

当社を存続会社とする吸収合併方式で、
リケンファブロ株式会社は解散。



株主還元 ～配当金～

配当方針

連結配当性向30%程度を一つの目途とした上で、今後の事業投資・自己資本の充実等も勘案し、安定的な配当を行う。

(円)

	中間	期末	通期	年間配当性向 (連結)	純資産配当率 (%)
2019年3月期	6.00	8.00	14.00	29.5	1.9
2020年3月期	8.00	8.00	16.00	33.3	2.1
2021年3月期	4.00	12.00	16.00	31.2	1.9
2022年3月期 (予想)※	8.00	10.00	18.00	31.5	-

※2022年3月期については、増益の業績予想を踏まえ、2円増配し、年間配当18円の配当予想

免責事項

本資料に記載されている計画、見通し、戦略およびその他の歴史的事実でないものは、作成時点において入手可能な情報に基づく将来に関する見通しであり、さまざまリスクおよび不確実性が内在しています。実際の業績は経営環境の変動などにより、これら見通しと大きく異なる可能性があります。また、本資料に記載されている当社および当社グループ以外の企業などにかかわる情報は、公開情報などから引用したものであり、情報の正確性などについて保証するものではありません。

お問い合わせ先

webmaster@rikentechnos.co.jp

経理部 高見